

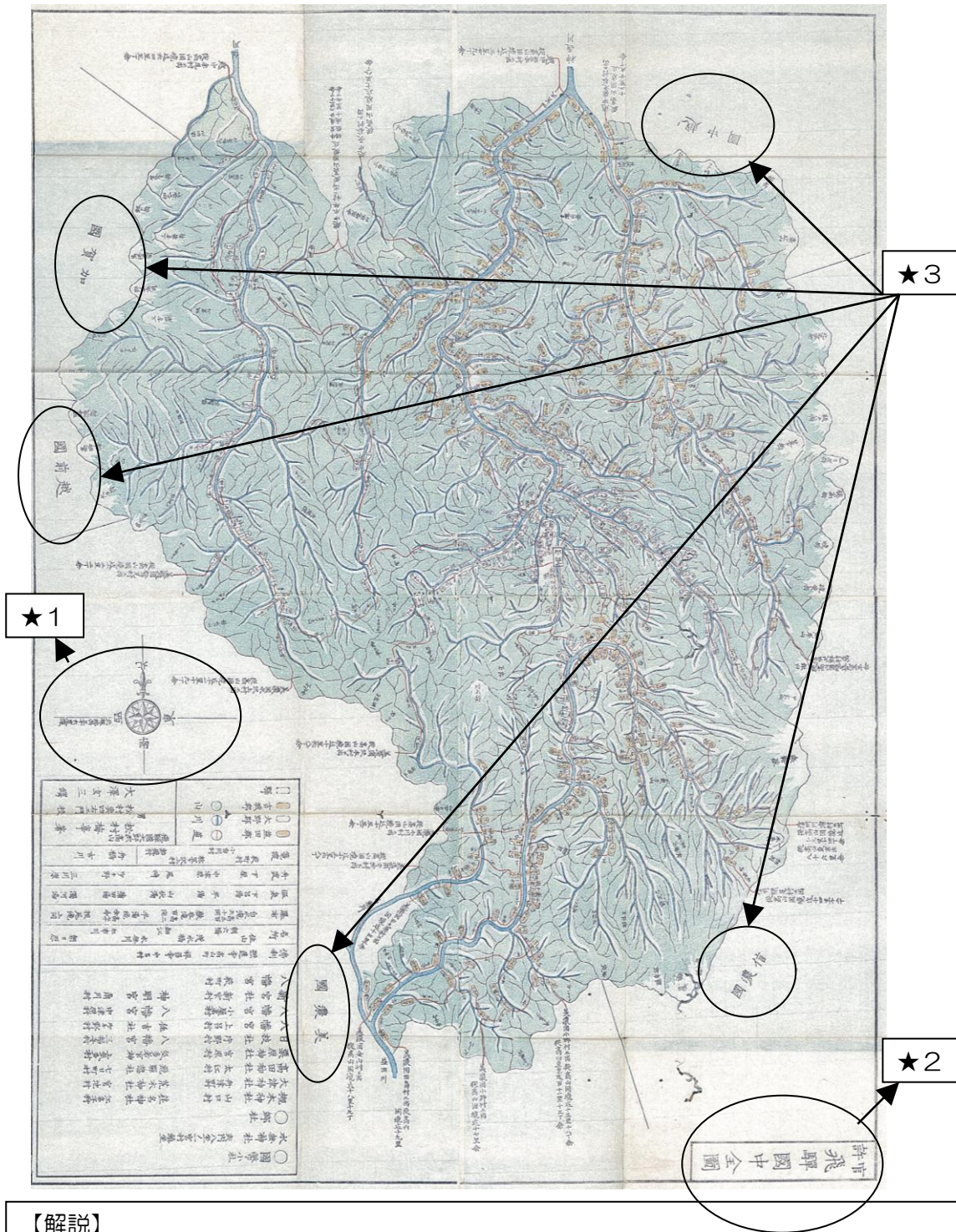
授業で使える当館所蔵地図

No. 3 『官許飛騨国全図』

作成年：明治初期（作製年不明）

サイズ：59×80cm

作者：松村梅幸（著）松村興四衛門（校）大沢玄三（鐫）



【解説】

全体が山を表す緑色で覆われ、国境には高い山々が連なり、乗鞍岳・穂高岳など一つ一つに名前が記されている。山国である飛騨国らしさが表れた絵図である。川の流域のわずかな平地に多くの村が連なり、赤く記された街道がある。昔の人々の知恵と苦勞がうかがえる。旅人への観光案内だろうか、下呂湯・平湯などの温泉、高さと幅が記された滝、仏刹名所、船渡、籠渡などの情報が盛り込まれている。左側が北となっており、方位に着目して地図を見る必要がある。

★1 方位

方位が示されている。地図通りを見ると、左が北になる。

★2 飛騨国

飛騨国（ひだのくに）はかつて日本の地方行政区分だった令制国の一つ。江戸時代になると、当初は高山藩が置かれていたが、後に幕領となり、高山代官所（1777年に飛騨郡代に昇格）が飛騨国を治める事となる。この時代には、飛騨国は林業地帯として発展し、「飛騨の匠」と呼ばれる大工を多く排出した。

★3 隣接する国

飛騨国（ひだのくに）と隣接する国は、以下の通りである。

- ・美濃国・・・現在の岐阜県南部。岐阜県は飛騨国と美濃国があった。
- ・信濃国・・・現在の長野県
- ・越中国・・・現在の富山県
- ・加賀国・・・現在の石川県
- ・越前国・・・現在の福井県

【活用の例】

○当時の観光地を調べることができる。

→江戸時代の観光地も当時と同じであったことがわかる。

温泉：下呂湯、平湯など

瀑布（ばくふ）：高い所から白い布を垂らしたように、直下する水の流れ。滝のこと。

白水滝、嶽谷滝など。

それぞれ高さも表してある。

高さの単位：1間＝1.82m 白水滝は360間＝655.2m

○当時の土地利用を調べることができる。

→山間の川沿いに集落があることがわかる。

地理的分野においても、人が住むところは川沿いの低い土地であることを学習している。同様にこの地図でも人の住むところは同じであることがわかる。

○道のつながりを調べることができる。

→どの国のどの村に出るのか、国境から高山までどれぐらいの距離があるのかわかる。

例：益田川沿いの「下ハラ」からは「美濃国金山村工出 従高山国境迄十八里十九丁」とある。

「金山村に行くことができ、この国境から高山までは十八里十九丁の距離がある」とわかる。十八里十九丁＝約74km111mである。

※1里の長さは約4kmで、1869年に1里＝36町に統一され、1891年制定の度量衡法により約3.927kmとされました。

○当時の山を調べることができる。

→穂高岳、乗鞍岳、御嶽など、現在も有名な飛騨山脈を調べることができる。

○川の流れ（分水嶺）を調べることができる。

→日本海側に流れるのか、太平洋側に流れるのか、川が鮮明に描かれているため、読み取ることができる。